

熊本県福祉サービス第三者評価結果公表基準（概要版）

1 福祉サービス事業者情報

(1) 事業者概要

事業所名称： (施設名) 稲光園	種別： 保育所
代表者氏名： (管理者) 園長 佐々木 法音	開設年月日： 昭和51年11月1日
設置主体： 社会福祉法人 善照福祉会 経営主体： 社会福祉法人 善照福祉会	定員： 80名 (利用人数) (70名)
所在地：〒861-0303 熊本県山鹿市鹿本町高橋646	
連絡先電話番号： 0968-46-5030	FAX番号： 0968-46-2562
ホームページアドレス	http://www.

(2) 基本情報

サービス内容(事業内容)	施設の主な行事
第二種社会福祉事業(保育所) 7:30～19:00までの保育(延長含む)	入園・進級式 総会 クラス懇談会 家庭訪問(個人面談) 親子ふれあい 遠足 健康診断 歯科検診 プール開き 四園交通安全親子の集い 保育参観 お泊り保育 夏祭り 水泳大会 運動会 秋の遠足 芋ほり 祖母の会 七五三 健康診断 発表会(4・5歳) 発表会(未満児) もちつき 節分 卒園記念展(絵の展示) 保育参観 ひなまつり お別れ遠足 卒園式
居室概要	居室以外の施設設備の概要
0歳児保育室 1歳児保育室 2歳児保育室 3・4・5歳児保育室 多目的ホール	調理室 事務室 相談室 浴室 倉庫 トイレ

2 施設・事業所の特徴的な取組

<p>「明るく」「元気に」「伸び伸びと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 明るく健やかな心身を育みます。 ・ 豊かな創造性とやる気を育みます。 ・ 基本的な生活習慣を身に付けます。 ・ 友だちとの協調性を育みます。 ・ 人格づくり基礎を育みます。

3 評価結果総評

特に評価の高い点

I. 園長のリーダーシップのもと、チームワークのよい職員集団が形成されています。

園長のリーダーシップのもと、就業形態や勤務体制を職員の家庭の状況に配慮して調整するなど、職員のワークライフバランスへの細やかな配慮が行なわれています。働きやすい就労環境は、保育を通して理念・基本方針の実現へ向けたチームとしての強い結束に繋がっていることをうかがい知ることができます。

II. 環境を活かした保育の実践が行なわれています。

豊かな自然や地域性を生かしながら子どもを育て育む環境の充実へ向けた配慮と工夫が随所に見られます。地域の老人会や商工会等との定期的な交流、恵まれた自然環境を活かした子どもたちの十分な遊びこみの保障、絵画や造形活動などを通じた体験の積み重ねなど、子どもたちの協調性や規律性、創造性などを育くむ保育の実践に向けた取り組みが行なわれています。

III. 家庭と連携しながら一人ひとりの子どもの育ちを見守られています。

在園児一人ひとりのお便り帳のやり取りは、連絡帳としての機能だけに留まらず、園と家庭それぞれの場面における子どもの育ちを共有するものと位置づけられていることがうかがえます。子育て及び親育ちに寄り添う姿勢は、園に対する保護者の安心感や信頼に繋がる取り組みと言えます。

改善を求められる点

I. PDCAサイクルによりマニュアルや計画等の充実が図られることを期待します。

マニュアルや計画等については、十分な評価・見直しには至っていない状況が見られます。PDCAサイクルに基づくスパイラルアップの仕組みにより、定期的・継続的な評価・見直しを確実にを行い、保育の質の向上に繋げていくことが求められます。

II. 会議録などの記録の充実が望まれます。

子どもに関する記録については、育ちや保育者の関わりなどが分かるように記入されています。しかし、職員会議やその他の記録に関しては、必要とされる事項についての検討内容や決定事項等が十分に記録されているとは言い難い状況が見られます。職員間での情報の共有と共通理解を念頭においた記録の充実が望まれます。

III. 標準的な実施方法の文書化が求められます。

保育の質の向上のためには、平準化された一定水準での保育の実践が必要です。保育の標準的な実施方法やプライバシーへの配慮事項など、職員間でいつでも確認できるような文書の整備が求められます。

4 第三者評価結果に対する事業者のコメント（400字以内）

(H28.1.26)

第三者評価という当園以外の外の方の評価をして戴くという初めての経験でした。

自分達ではちゃんと保育園経営も、できていたつもりでしたが、第三者評価を受けてみるとまだまだ不足しているところが沢山出てきました。職員との話題の共有がまだまだ伝わっていないといわれたり、稲光園の基本理念や方針などもみんなで理解しておくことの大切さなど、みんなで勉強会を沢山することが大事だなと話しました。

第三者評価は低くても、子ども達が喜んでくる保育園にしようといっていたのですが、それだけでは不十分だということがわかり、子どもにも、保護者にも、職員みんなにも申し訳なく思いました。

そこで、これからは、目標をもって、意識の向上や職員の協力体制を充実し、子ども達の保育の向上に努めていきたいと思っています。さらなる努力をしていきたいと思えます。

(別記)

(公表様式1)

熊本県福祉サービス第三者評価結果公表基準

【保育所版】

評価機関

名 称	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ
所 在 地	佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号
評価実施期間	平成27年12月14日～27年12月15日
評価調査者番号	第07-001号
	第12-007号
	第09-006号

1 福祉サービス事業者情報

(1) 事業者概要

事業所名称： (施設名) 稲光園	種別： 保育所
代表者氏名： (管理者) 園長 佐々木 法音	開設年月日： 昭和51年11月1日
設置主体： 社会福祉法人 善照福祉会 経営主体： 社会福祉法人 善照福祉会	定員： 80名 (利用人数) (70名)
所在地：〒861-0303 熊本県山鹿市鹿本町高橋646	
連絡先電話番号： 0968-46-5030	FAX番号： 0968-46-2562
ホームページアドレス	http://www.

(2) 基本情報

サービス内容(事業内容)	施設の主な行事					
第二種社会福祉事業(保育所) 7:30～19:00までの保育(延長含む)	入園・進級式 総会 クラス懇談会 家庭訪問(個人面談) 親子ふれあい遠足 健康診断 歯科検診 プール開き 四園交通安全親子の集い 保育参観 お泊り保育 夏祭り 水泳大会 運動会 秋の遠足 芋ほり 祖父母の会 七五三 健康診断 発表会(4・5歳) 発表会(未満児) もちつき 節分 卒園記念展(絵の展示) 保育参観 ひなまつり お別れ遠足 卒園式					
居室概要	居室以外の施設設備の概要					
0歳児保育室 1歳児保育室 2歳児保育室 3・4・5歳児保育室 多目的ホール	調理室 事務室 相談室 浴室 倉庫 トイレ					
職員の配置						
	職 種	常 勤	非常勤	資 格	常 勤	非常勤
	園 長	1		社会福祉主事	1	
	主任保育士	1		保育士	10	3
	保育士	9	3	栄養士	1	
	栄養士	1		調理師	1	
	調理師	1		看護師	1	
	看護師	1				
	保育補助		1			
	合 計	14	4	合 計	14	3

資格の種別は、保健・福祉・医療に関するものを記入してあります。

複数の資格を持ち重複計上している場合があるため、職種と資格の数は必ずしも一致しません。

2 理念・基本方針

理念

一人ひとりの子どもの育ちや人権を大切に、健康かつ安全で情緒豊かな保育を行い、保護者から信頼され、地域に愛される保育を目指します。

基本方針

保護者との緊密な連携のもと、大人との十分な愛着関係を形成し、一人ひとりの発達過程を尊重しながら保育します。

お年寄りや地域の人と触れ合ったり、自然の中で遊ぶことでさまざまな感動を味わい、豊かな人間性を持った子どもを育みます。

3 施設・事業所の特徴的な取組

「明るく」「元気に」「伸び伸びと」

- ・ 明るく健やかな心身を育みます。
- ・ 豊かな創造性とやる気を育みます。
- ・ 基本的な生活習慣を身に付けます。
- ・ 友だちとの協調性を育みます。
- ・ 人格づくり基礎を育みます。

4 第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成 26年 9月 10日(契約日) ~ 平成 28年 1月 26日(評価結果確定日)
受審回数(前回の受審時期)	1回(平成 年度)

5 評価結果総評

特に評価の高い点

I. 園長のリーダーシップのもと、チームワークのよい職員集団が形成されています。

園長のリーダーシップのもと、就業形態や勤務体制を職員の家庭の状況に配慮して調整するなど、職員のワークライフバランスへの細やかな配慮が行なわれています。働きやすい就労環境は、保育を通して理念・基本方針の実現へ向けたチームとしての強い結束に繋がっていることをうかがい知ることができます。

II. 環境を活かした保育の実践が行なわれています。

豊かな自然や地域性を生かしながら子どもを育て育む環境の充実へ向けた配慮と工夫が随所に見られます。地域の老人会や商工会等との定期的な交流、恵まれた自然環境を活かした子どもたちの十分な遊びこみの保障、絵画や造形活動などを通じた体験の積み重ねなど、子どもたちの協調性や規律性、創造性などを育くむ保育の実践に向けた取り組みが行われています。

III. 家庭と連携しながら一人ひとりの子どもの育ちを見守られています。

在園児一人ひとりとお便り帳のやり取りは、連絡帳としての機能だけに留まらず、園と家庭それぞれの場面における子どもの育ちを共有するものと位置づけられていることがうかがえます。子育て及び親育ちに寄り添う姿勢は、園に対する保護者の安心感や信頼に繋がる取り組みと言えます。

改善を求められる点

I. PDCAサイクルによりマニュアルや計画等の充実が図られることを期待します。

マニュアルや計画等については、十分な評価・見直しには至っていない状況が見られます。PDCAサイクルに基づくスパイラルアップの仕組みにより、定期的・継続的な評価・見直しを確実にを行い、保育の質の向上に繋げていくことが求められます。

II. 会議録などの記録の充実が望まれます。

子どもに関する記録については、育ちや保育者の関わりなどが分かるように記入されています。しかし、職員会議やその他の記録に関しては、必要とされる事項についての検討内容や決定事項等が十分に記録されているとは言い難い状況が見られます。職員間での情報の共有と共通理解を念頭においた記録の充実が望まれます。

III. 標準的な実施方法の文書化が求められます。

保育の質の向上のためには、平準化された一定水準での保育の実践が必要です。保育の標準的な実施方法やプライバシーへの配慮事項など、職員間でいつでも確認できるような文書の整備が求められます。

6 第三者評価結果に対する事業者のコメント（400字以内）

(H28.1.26)

第三者評価という当園以外の外の方の評価をして戴くという初めての経験でした。

自分達ではちゃんと保育園経営も、できていたつもりでしたが、第三者評価を受けてみるとまだまだ不足しているところが沢山出てきました。職員との話題の共有がまだまだ伝わっていないといわれたり、稲光園の基本理念や方針などもみんなで理解しておくことの大切さなど、みんなで勉強会を沢山することが大事ななど話し合いました。

第三者評価は低くても、子ども達が喜んでくる保育園にしようといっていたのですが、それだけでは不十分だということがわかり、子どもにも、保護者にも、職員みんなにも申し訳なく思いました。

そこで、これからは、目標をもって、意識の向上や職員の協力体制を充実し、子ども達の保育の向上に努めていきたいと思っています。さらなる努力をしていきたいと思えます。

7 第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

(参考) 利用者調査の手法等

調査の手法	対象者	対象数(人)	基準数に満たない場合の理由
アンケート調査	利用者本人		
	家族・保護者	45	
聞き取り調査	利用者本人		
	家族・保護者		
観察調査	利用者本人		

第三者評価結果

すべての評価細目について、判断基準(a・b・cの3段階)に基づいた評価結果を表示する。

評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

評価対象 福祉サービスの基本方針と組織

- 1 理念・基本方針

		第三者評価結果
- 1 - (1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
1	- 1 - (1) - 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a・⑥・c
<p><コメント></p> <p>公立から私立へと移行する過程で、なめらかな変化を念頭においた組織運営と私立保育園としての確固たる信念に基づいた取り組みが見られます。</p> <p>理念・基本方針は明文化されていますが、ホームページへの掲載や園内掲示には至っていない状況です。今後は園のオリジナリティも加えながら、保護者や地域への周知に向けた更なる取り組みを期待します。</p>		

- 2 経営状況の把握

		第三者評価結果
- 2 - (1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
2	- 2 - (1) - 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a・⑥・c
<p><コメント></p> <p>社会状況の変化に対してもぶれることなく「子どもにとってのよい環境を整備したい」という園長の熱い思いが、施設的なハード面や人的環境を含むソフト面からうかがい知ることができます。</p> <p>事業環境については、園長会や保育会、研修会などで乳幼児数の推移や新制度における保育園を取り巻く情報が収集されています。</p> <p>今後は、利用者アンケートの実施に基づく意見・要望の把握や保育コストの分析、地域の居住地分布、潜在的利用者データの収集などにより、更なる環境の把握・分析に努められることを期待します。</p>		
3	- 2 - (1) - 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a・⑥・c
<p><コメント></p> <p>財務面での経営課題については内部監査が行われ、理事会でも共有されていますが、保育内容や人材育成、組織体制など運營業務面についての具体的な現状分析や課題抽出に向けては更なる取り組みが望まれます。</p>		

- 3 事業計画の策定

		第三者評価結果
- 3 - (1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
4	- 3 - (1) - 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>施設整備や地域との交流に対する園長の熱い思いは、「健康かつ安全で情緒豊かな保育」という理念や「豊かな創造性とやる気をはぐくむ」という目標との整合性を保ちながら、その実現に向けた大きな機動力となっていることがうかがえます。</p> <p>造形や幼児絵画(児童画)を通した子どもたちの複数年度の育成計画等を策定し、目標に向けての取り組みは県内外での絵画展などを通して外部にも見え始めているところです。</p> <p>法人や施設の中・長期計画の策定については、その具体性などに課題が残ります。</p>		
5	- 3 - (1) - 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>単年度の計画は、提供する保育の具体的な内容となってはいますが、中・長期計画を踏まえた年次計画の策定には至っていない状況です。当該年度終了時の評価・分析を具体的な数値や項目を用いて行ない、次年度の計画に繋げることができるような取り組みも求められます。</p>		
- 3 - (2) 事業計画が適切に策定されている。		
6	- 3 - (2) - 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>事業計画の内容や実施状況については、職員会議等での共通理解や把握が行われていますが、あらかじめ定められた時期や手順による組織的な評価・見直しには至っていないことから今後の課題と捉えます。</p>		
7	- 3 - (2) - 事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>保護者等への事業計画の配布や掲示、説明については、利用者アンケートの結果からも更なる取り組みが求められていることを読み取ることができます。</p> <p>事業計画の周知については、わかりやすい内容のパンフレットや印刷物の作成、配布、掲示など周知へ向けた取り組みや工夫が求められます。</p>		

- 4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
- 4 - (1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	- 4 - (1) - 福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>職員間で保育を参観し合うなどの意識的な取り組みも行われていますが、PDCAサイクルが明確に機能しているとは言い難い状況がうかがえます。今後は、個人レベルと園レベル両面での組織的な保育サービスの質の向上に向けた取り組みが求められます。</p>		
9	- 4 - (1) - 評価結果にもとづき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>保育内容や行事についての検討は行われていますが、PDCAサイクルに沿った評価に基づく課題の抽出や分析には至っていない状況です。課題を明確にすることで、職員間での共有と改善に向けた園全体での取り組みへと繋がられることを期待します。</p>		

評価対象 組織の運営管理

- 1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
- 1 - (1) 管理者の責任が明確にされている。		
10	- 1 - (1) - 管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	①・b・c
<p><コメント></p> <p>管理規定には平常時及び有事における園長自らの役割や責任が明示されています。職員が常に保育に集中して取り組むことができるような環境作りを念頭に置きながら、日常的に職員とのより良い関係性の構築に取り組まれています。</p>		
11	- 1 - (1) - 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a・②・c
<p><コメント></p> <p>園長は保育協会や園長会などを通して法令等に関する理解に努められています。しかし、職員に対する法令等の遵守に向けた教育・研修への取り組みは課題と捉えます。保育園運営に必要な法令や環境への配慮を含む関係法令のリスト化など、職員への周知に向けた更なる取り組みを期待します。</p>		
- 1 - (2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
12	- 1 - (2) - 福祉サービスの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a・③・c
<p><コメント></p> <p>環境を通して保育に取り組むという観点からは園の立地を生かし、大型遊具などに頼らない保育が実践されています。子どもが自ら創り出す遊びを通して、子どもたちの体力や創造力、人間関係を園全体で育もうという保育への熱い思いもうかがえます。</p> <p>今後は質の向上に向けた課題を把握・分析し、PDCAのプロセスによる改善活動に取り組まれることを期待します。</p>		
13	- 1 - (2) - 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a・④・c
<p><コメント></p> <p>改修を重ねた園舎を建て替えるといった決断からも、子どもたちにとっての安全でより良い保育環境の実現に向けた園長の強い決意と実行力がうかがえます。また、ソフト面でも職員の働きやすい環境整備に対して、組織内に同様の意識が形成されていることもうかがえます。</p> <p>安定した事業運営のためには、財務面でのコストバランスの分析や予算執行状況の把握など、より具体的で明確な数値把握が求められます。質の高い事業を継続するためにも保育会の動向や業務内容についての検証結果等を職員と共有できるような取り組みが望まれます。</p>		

- 2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
- 2 - (1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	- 2 - (1) - 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a・⑤・c
<p><コメント></p> <p>“職員がより保育に専念できるような人身体制の確保”と“ワークライフバランスを考慮した職場環境の整備”に向けた取り組みなど、園長の配慮や努力はうかがえます。人材の確保や育成は、社会的な大きな課題でもることから、より具体的な方針や計画を明確にした積極的な取り組みが望まれます。</p>		

15	- 2 - (1) - 総合的な人事管理が行われている。	a・⑥・c
<p><コメント> 正規職員への登用や非常勤職員の雇用、給与水準・職員処遇に関する情報の収集などは行われていますが、キャリアパスについての明確な基準や方針の明示など総合的な人事管理には至っていない状況がうかがえます。</p>		
- 2 - (2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
16	- 2 - (2) - 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a・⑥・c
<p><コメント> 職員の意向やワークライフバランスに配慮した働きやすい職場づくりの実現を目指されていることはうかがえますが、仕組みの構築には至っていない状況です。今後は、定期的に職員の意向を把握し、それらの分析や検討に基づく改善活動が継続的に展開されることを期待します。</p>		
- 2 - (3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17	- 2 - (3) - 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a・b・⑥
<p><コメント> 組織を形成する職員間のコミュニケーションはスムーズで、日常的な助言や見守りを通じた職員の育成が行われていますが、個々の育成に関する計画等については明確で具体的とは言い難い状況にあります。</p>		
18	- 2 - (3) - 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a・⑥・c
<p><コメント> 理念及び基本方針並びに保育目標の達成のためには、園が求める知識水準やスキル、資格などをより明確にした職員の教育・研修計画の策定が望まれます。計画が具体的に明文化されることは、職員の質の向上へ向けた取り組みにつながるものと思われれます。</p>		
19	- 2 - (3) - 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a・⑥・c
<p><コメント> 外部研修受講後は、復命書や園内研修などにより職員間での情報の共有化に努められています。今後は、計画的な研修受講やテーマを定めた継続的な研修の実施、研修受講後の評価・分析への取り組みなどを期待します。</p>		
- 2 - (4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
20	- 2 - (4) - 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	⑥・b・c
<p><コメント> 実習生の受け入れ要綱やマニュアル、プログラムが整備され、職員や保護者への周知も図られています。</p>		

- 3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
- 3 - (1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	- 3 - (1) - 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a・⑥・c
<p><コメント> 園のしおりを地域の老人会や市役所、子育て支援センター等に配布されています。しかし、ホームページについては開設されて間もないことから、理念・基本方針などの明示が十分ではなく、決算などの財務情報や苦情・相談等の情報公開についても課題が見られます。</p>		

22	- 3 - (1) - 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a・⑥・c
<p><コメント> 財務処理は、委託した税理士により行われ、毎月の報告や助言を受けながら計画に沿った内部監査も行われています。今後は財務面だけでなく保育業務面でも、より質の高い運営へ向けた客観的な業務監査への取り組みを期待します。</p>		

- 4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
- 4 - (1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	- 4 - (1) - 利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。	④・b・c
<p><コメント> 年間を通して地域の老人会や隣接する小学校との交流が行われています。また、親世代を含むネットワークの広がりも見受けられます。</p>		
24	- 4 - (1) - ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	④・b・c
<p><コメント> ボランティアや保育体験などの受け入れに関する要綱からは意義や基本姿勢を読み取ることができます。マニュアルや受け入れ手順等からもスムーズな受け入れに取り組もうとされる姿勢がうかがえます。</p>		
- 4 - (2) 関係機関との連携が確保されている。		
25	- 4 - (2) - 福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	④・b・c
<p><コメント> 関係機関との連携は、校区内での幼保小連携協議会や、地域の連絡会議(あやとり会議)への参加などを通じた取り組みが見られます。</p>		
- 4 - (3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
26	- 4 - (3) - 福祉施設・事業所が有する機能を地域に還元している。	④・b・c
<p><コメント> 園解放は、未就園児や地域における子育て家庭に対する園の持つ安全な遊び場の提供や保育の場面を身近に感じてもらう取り組みと言えます。老人会との定期的な交流や地域のお祭りへの参加などは、子どもの持つパワーを地域に発信し、元気や笑顔として還元することにつながる取り組みとなっているようです。</p>		
27	- 4 - (3) - 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a・⑥・c
<p><コメント> 地域行事への積極的な参加は、地域の活性化に繋がるものと思われます。子育てニーズなどの積極的な把握や、それに基づいた具体的な活動などについては今後の課題と言えます。</p>		

評価対象 適切な福祉サービスの実施

- 1 利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果
- 1 - (1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
28	- 1 - (1) - 利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	a・⑥・c
<p><コメント></p> <p>一人ひとりの子どもを尊重する姿勢は、保育理念や保育方針に明示されています。子どもの人権や権利擁護についての研修に参加され、職員会議でも共通理解ができるように取り組まれています。日々の保育の中でも言葉の選び方や子どもへの接し方など、気になることがあればその都度話し合いが行なわれています。</p> <p>課題としては、子どもの尊重について具体的に示したマニュアル等の整備が挙げられます。</p>		
29	- 1 - (1) - 利用者のプライバシー保護等の権利擁護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	a・⑥・c
<p><コメント></p> <p>おもしろがあった場合には、ほかの子どもにわからないよう職員が対処するなど、子どもの羞恥心への配慮が見受けられます。園だよりや掲示物での写真や名前の表示については、保護者に事前に説明を行うなど、個人情報保護への配慮もうかがえます。子どものプライバシーの保護は、子どもを尊重した保育にも繋がることから、保育の場面での必要な注意点等を記したマニュアルの整備や職員研修による知識の習得などが求められます。</p>		
- 1 - (2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
30	- 1 - (2) - 利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	①・b・c
<p><コメント></p> <p>ホームページが開設され、「入園のしおり」を市役所・子育て支援センターの窓口においての情報発信が行われています。主任保育士が窓口となり、見学などの希望にも丁寧に応じられています。</p>		
31	- 1 - (2) - 福祉サービスの開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。	①・b・c
<p><コメント></p> <p>利用開始時には、説明チェックリストに基づく詳細な説明が行われています。保護者と一緒に確認しながら説明され、保護者が子どもの名前を記入する形で同意確認も行なわれています。また、子どもの持ち物については、準備すべきものの実物を示してわかりやすい説明に努められています。</p>		
32	- 1 - (2) - 福祉施設・事業所の変更や家庭への移行等にあたり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	a・⑥・c
<p><コメント></p> <p>市内の保育所への変更については、保護者の同意を得たうえで保育所間（あやとり会議）での情報交換が行われています。転園や卒園後でも相談に応じることが保護者に説明されており、実際に小学校入学後にも卒園児や保護者からの相談を受けられています。</p> <p>課題としては、引継ぎ文書や手順の組織的な取り決めが挙げられます。</p>		
- 1 - (3) 利用者満足の向上に努めている。		
33	- 1 - (3) - 利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a・⑥・c
<p><コメント></p> <p>懇談会や保護者会、行事後の連絡帳などにより意見の収集・把握が行なわれ、その都度対応されています。しかし、定期的で継続的な利用者満足に関する調査や、それに基づく評価・分析並びに改善活動については今後の課題と言えます。</p>		

- 1 - (4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
34	- 1 - (4) - 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>苦情解決の体制や仕組みは構築されており、解決に向けての取り組みが見られます。しかし、苦情内容や苦情解決結果などの公表には至っていない状況が見られます。記録の保管や苦情解決の仕組みの掲示などと併せて更なる取り組みが求められます。</p>		
35	- 1 - (4) - 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>園のしおりに、いつでも、誰にでも相談できることが明示されています。相談への対応には、相談等を申し出た保護者の状態に応じて、相談室や保育室、多目的室を使用されるなど柔軟な対応も見られます。しかし、相談窓口・方法などを分かりやすく説明した文書の掲示や、積極的な声掛けなどについては更なる取り組みを期待します。</p>		
36	- 1 - (4) - 利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>送迎時など保護者との会話の中で意見等が把握されています。しかし、迅速な対応に関する組織的な仕組みの構築には課題が残ります。</p>		
- 1 - (5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
37	- 1 - (5) - 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>事故対応マニュアルが整備されており、安全管理の研修にも取り組まれています。ヒヤリハット報告書等も作成され、要因の分析や再発防止策の検討も行われています。今後は、園内の事例に限らず、他の事例も収集され、様々な場面を想定した事例検討に取り組まれることを期待します。</p>		
38	- 1 - (5) - 感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>感染症対策についての体制が整えられており、予防と発生時のマニュアルも整備されています。いつでも見ることができるようクラス毎に配置されており、職員への周知にも努められています。また、感染症対策のための必要な物品もクラス毎に準備されています。保護者へは、発生時に臨時のお便りや掲示板による情報の提供が行われています。</p>		
39	- 1 - (5) - 災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的に行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>自衛消防組織が編成され、月1回の避難訓練など子どもの安全確保に取り組まれています。台風を想定しての園舎建て替えやカメラの設置など、自然災害や防犯に対する意識も高いと言えます。また、災害に備えて水や乾パン、乳児のミルク、おむつなどの備蓄も行なわれています。今後は更に備蓄の種類及び量の充実を図られ、管理方法などについても検討されることを期待します。</p>		

- 2 福祉サービスの質の確保

		第三者評価結果
- 2 -(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
40	- 2 -(1)- 提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>保育の標準的な実施方法については、職員会議やクラス毎のミーティングの中で個別指導や話し合いなどが行われています。しかし、標準的な実施方法についての文書化には至っていない状況が見られます。プライバシー保護への配慮や留意点等を含む標準的な実施方法を文書化されることが求められます。</p>		
41	- 2 -(1)- 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>会議やミーティング等で標準的な実施方法の検討などは随時行われていますが、文書化には至っていないため適切な見直しに繋がっているとは言えない状況です。文書化を図られた後は、職員からの意見や提案等を踏まえて定期的・継続的な見直しに取り組まれることが求められます。</p>		
- 2 -(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
42	- 2 -(2)- アセスメントにもとづく個別的な福祉サービス実施計画を適切に策定している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>家庭訪問や面談で、保護者の子育てに対する不安や子どもの育ち、保育園への希望などを聴き取り、ニーズの把握に繋がっています。アセスメントから計画策定、評価・見直しまでの仕組みも構築されています。しかし、子どもの状況やニーズを正確に把握するための部門横断的な各職種によるアセスメントについては、更なる取り組みを期待したいところです。</p>		
43	- 2 -(2)- 定期的に福祉サービス実施計画の評価・見直しを行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>年間計画・月間計画・週案と夫々に評価・見直しが行われています。また、緊急に計画変更等が生じた場合には、会議等にて情報が共有される仕組みもあります。今後は、各専門職種による部門横断的なアセスメントに基づく保育計画の評価・見直しに取り組まれることを期待します。</p>		
- 2 -(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
44	- 2 -(3)- 利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>子どもの身体状況や生活状況、保育の実施状況は記録に残され、情報の共有化が図られています。しかし、職員により記録に差異が生じないような具体策については改善の余地が見受けられます。マニュアルや記入要領、記入例の活用など、記録に差異が生じないための工夫を期待します。</p>		
45	- 2 -(3)- 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>個人情報の取り扱いについては、保護者へは入園時の説明が行われており、職員へは研修参加が促されています。また、個人情報の利用目的や取得の制限、個人データの適正管理、開示等について定めた個人情報保護規程も整備されています。しかし、記録の保存年数や廃棄の方法等については、具体的な取り決めには至っていない状況が見られます。</p>		

評価対象

A - 1 保育所保育の基本

		第三者評価結果
A - 1 - (1) 養護と教育の一体的展開		
A - 1 - (1) -	保育所の保育の方針や目標に基づき、発達過程を踏まえ、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に即した保育課程を編成している。	㉑・b・c
<コメント> 保育課程は毎年度、基本方針、地域の特性、家庭状況などを踏まえて、年齢別の発達段階に応じた保育目標を教育と養護の視点で掲げ編成されています。小グループから段階的に全職員が編成に参画する仕組みも構築されています。		
A - 1 - (1) -	乳児保育のための適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。	㉑・b・c
<コメント> 一人ひとりの生活リズムや健康、安全、情緒の安定に配慮した保育に取り組まれています。睡眠状態のチェックは、10分間隔で呼吸及び顔の向きの確認が行なわれ記録に残されています。離乳食の献立も初期・中期・後期とベースになる献立が作成され、保護者と保育士、栄養士で相談しながら一人ひとりに応じたものが提供されています。		
A - 1 - (1) -	1・2歳児の保育において養護と教育の一体的展開がされるような適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。	㉑・b・c
<コメント> 床暖房で、冷たさを感じることなく探索など様々な活動が十分にできる環境が整えられ、自我の育ちを受け止めながら発達に応じた関わりが丁寧に行なわれています。		
A - 1 - (1) -	3歳以上児の保育において養護と教育の一体的展開がされるような適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。	㉑・b・c
<コメント> 子どもたちが主体的に集中して遊び込めるように、備品の位置などに配慮された環境が室内外に整えられています。4・5歳児は同室で保育が行われていますが、保育活動によって年齢別の活動を行なうなど、その実践には細やかな配慮と工夫が見られます。		
A - 1 - (1) -	小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、保育の内容や方法、保護者とのかかわりに配慮されている。	㉑・b・c
<コメント> 就学を見通した年長児の活動としては、小学生との田植えや稲刈り、案山子づくり、秋まつりなどがあります。小学校との関係のもと保育が進められ、保護者との親子体験入学の機会も設けられています。また、知りえた情報については保護者に伝達するなど就学以降の生活に見通しが持てるような配慮もうかがえます。		
A - 1 - (1) -	職員の接し方について、児童ひとりの個人として尊重する取り組みを行っている。	a・㉑・c
<コメント> 子どもに対しての言葉や保育士の姿勢、心構え等に関しては、不適切な対応がないように会議や研修により周知が図られ、日常の中での気づきを伝える事にも努められています。共通理解や認識を深める為にも、マニュアルの充実が待たれます。		

	A - 1 - (1) - 入園当初の環境変化に対応できるよう支援している。	㉑・b・c
<コメント> 入園前には、親子で保育や給食を体験することができ、利用開始時には、環境の変化の影響を考慮し、ならし保育などの取り組みも行なわれています。入園時の面接では、子どもや保護者の不安軽減に対してきめ細やかに配慮され、家庭と連携しながらスムーズに環境に慣れることができるように柔軟な対応を心がけられています。		
A - 1 - (2) 環境を通して行う保育		
	A - 1 - (2) - 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできるような人的・物的環境が整備されている。	a・㉒・c
<コメント> 職員の適切な配置による人的な保育環境の整備に努められており、安心して豊かな活動ができるよう配慮されています。タオルの共有や便座シートの使用、布団の消毒や乾燥の回数などについては、衛生面から再検討に取り組まれることを期待します。		
	A - 1 - (2) - 子どもが基本的な生活習慣を身につけ、積極的に身体的な活動ができるような環境が整備されている。	㉑・b・c
<コメント> 強制したり、急かしたりするような場面や声かけはなく、自分でやろうという気持ちや行動に寄り添う姿勢がうかがえます。室内外で自ら遊びを工夫し、活動する時間や環境も設けられています。		
	A - 1 - (2) - 子どもが主体的に活動し、様々な人間関係や友だちとの協同的な体験ができるような人的・物的環境が整備されている。	㉑・b・c
<コメント> 子どもたちが好きな活動を十分に行なえるよう工夫され、体験活動に対する環境整備も行なわれています。年長児の当番表は係りのみの表示ではなく、「なんでもマン」と称した全員の役割が設定されており、子どもたちの自主的活動意欲を掻き立てる取り組みへの工夫が見られます。		
	A - 1 - (2) - 子どもが主体的に身近な自然や社会とかがかわれるような人的・物的環境が整備されている。	㉑・b・c
<コメント> 社会体験(消防署見学)や地域の伝統行事(神社参拝・ふるさと祭り)への参加、周りの自然環境を十分に取入れた保育など、計画に基づいた積極的な取り組みが見られます。		
	A - 1 - (2) - 子どもが言葉豊かな言語環境に触れたり、様々な表現活動が自由に体験できるような人的・物的環境が整備されている。	㉑・b・c
<コメント> 保育の中に取り入れられている「わらべ歌」の歌詞を保育室に掲示することで、唄いながら自然と文字が目に入るように工夫されています。子どもたちが自分たちの興味に応じた教材や用具を自由に選択して楽しめるようになっており、年齢ごとに「キッズピクス」を通した身体表現活動にも取り組まれています。		
	A - 1 - (2) - 施設・設備に関して、子ども・保護者や来所者が利用しやすいよう配慮した取り組みを行っている。	a・㉒・c
<コメント> 職員からの意見や提案に耳を傾けながら改善に取り組まれています。案内表示は十分とは言えない状況と言えます。目的の部屋へスムーズに移動できる環境整備に取り組まれることを期待します。		

A - 1 - (3) 職員の資質向上		
	A - 1 - (3) - 保育士等が主体的に自己評価に取り組み、保育の改善が図られている。	a・㉔・c
<p><コメント> 保育計画や保育実践の記録を通しての振り返りはあるものの、保育士の自己評価やそれを踏まえた保育所の自己評価には至っていない状況が見られます。</p>		

A - 2 子どもの生活と発達

		第三者評価結果
A - 2 - (1) 生活と発達の連続性		
	A - 2 - (1) - 子ども一人ひとりを受容し、理解を深めて働きかけや援助が行われている。	㉔・b・c
<p><コメント> 子ども一人ひとりの家庭環境や生活リズム等の違いが把握されており、その対応については職員会議などで共通理解に努められています。子どもの発達段階に応じて自主性を尊重し、年齢に応じた言葉遣いや態度などへの配慮もうかがえます。</p>		
	A - 2 - (1) - 障害のある子どもが安心して生活できる保育環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	a・㉔・c
<p><コメント> 専門機関と連携しながら保育の方法や方向性についての検討を重ねた上で保育が進められています。また、職員会議などで情報や知識の共有にも努められています。今後の課題としては、個別計画に基づく保育の実践が挙げられます。</p>		
	A - 2 - (1) - 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	a・㉔・c
<p><コメント> 長時間にわたり園で過ごす子どもについての情報は、職員間で確実に伝わるように伝達ノートなどを活用した引継ぎが行なわれています。延長保育などの際には、異年齢での遊びが展開されている中で、子どもの心に寄り添いながら不安解消に努められています。現在、軽食の提供などは行われていませんが、子どもの状態などを考慮した上での再検討に取り組まれることを期待します。</p>		
A - 2 - (2) 子どもの福祉を増進することに最もふさわしい生活の場		
	A - 2 - (2) - 子どもの健康管理は、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している。	㉔・b・c
<p><コメント> 予防接種歴は個別に記録され、ファイリングによりわかりやすく整理されています。子どもの健康管理については、健康衛生マニュアル内に記載されており、その周知徹底も図られています。体調に応じた柔軟な食事の提供も行われています。</p>		
	A - 2 - (2) - 食事を楽しむことができる工夫をしている。	㉔・b・c
<p><コメント> 2歳児以上は、同じフロアで食事ができる環境が整えられており、保育士と一緒に食べたり声をかけたりしながら楽しい食事時間になるよう配慮されています。毎週開催されている職員会議には栄養士も参加し、給食に関する意見の収集や検討に取り組まれています。</p>		
	A - 2 - (2) - 乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、食事について見直しや改善をしている。	㉔・b・c
<p><コメント> 給食には、旬の物が食材として使用されています。食材のもつ本来の味を生かし、彩りや切り方への配慮なども見られます。月齢に応じた離乳食作りや、手作りおやつについてもこだわりが感じられます。栄養士は、食事の様子を見たり、保育士からの意見を聴いたりして、見直しや改善に取り組まれています。</p>		

	A - 2 - (2) - 食育の取り組みを行っている。	㉑・b・c
<コメント> 食育計画が策定され、各年齢に応じたクッキング活動や、知識・マナーの習得に取り組まれています。残さず食べることの喜びを感じられるように、個人差やその日の食欲に応じ、量が調節できるような声かけや配慮が見られます。		
	A - 2 - (2) - 健康診断・歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	㉑・b・c
<コメント> 健康診断や歯科検診の結果は個人記録に残され、個々の保護者と保育者により情報が共有されています。また、子ども一人ひとりの発達や健康状態も把握し、保育の実践に生かされています。4歳・5歳児についてはフッ素洗口も実施されています。		
A - 2 - (3) 健康及び安全の実施体制		
	A - 2 - (3) - アレルギー疾患、慢性疾患等をもつ子どもに対し、主治医からの指示を得て、適切な対応を行っている。	㉑・b・c
<コメント> 保護者との面談やアレルギー調査票によって得られた情報と主治医の指示に基づいた丁寧な対応が行なわれています。食物アレルギーに関しては、主治医の指示のもとに除去食や代替食が提供されており、食器の色による誤食防止策などの工夫も見られます。		
	A - 2 - (3) - 調理場、水周りなどの衛生管理が適切に実施され、食中毒の発生時に対応できるような体制が整備されている。	㉑・b・c
<コメント> 衛生管理に関するマニュアルが整備され、定期的な見直しが行なわれています。また、マニュアルに基づいた組織的な対応が行われ、水周りの衛生が保たれるよう職員への周知徹底にも努められています。		

A - 3 保護者に対する支援

		第三者評価結果
A - 3 - (1) 家庭との緊密な連携		
	A - 3 - (1) - 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。	a・㉑・c
<コメント> 食に関する家庭との連携は、献立表やお便りなどによって図られています。離乳食の献立表(初期・中期・後期)もあり、離乳食開始時から保護者への個別対応も行なわれています。また、朝食の大切さ知ってもらう取り組みにも工夫が見られ、子どもの食生活の充実に向けて保護者との連携を大切にされていることもうかがい知ることができます。今後は、更なる保護者との連携の充実に向けて、サンプル食の展示について再検討されることを期待します。		
	A - 3 - (1) - 家庭と子どもの保育が密接に関連した保護者支援を行っている	㉑・b・c
<コメント> 連絡帳は、全園児に活用されており、園での様子が丁寧に記されています。また、家庭での情報の把握にも役立てられています。送迎時の会話を通じての情報交換にも努められており、必要に応じて担任や主任が話しを聴くなどの支援へと繋がられています。		
	A - 3 - (1) - 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通の理解を得るための機会を設けている。	㉑・b・c
<コメント> 懇談会や保育参観、個人面談、家庭訪問など、子育てについての共通理解を得るための機会が設けられています。		

	A - 3 - (1) - 保護者組織の活動に対する援助や意見交換を行っている。	①・b・c
<p><コメント> 保護者組織の活動としては、夏祭りへの出店や運動会の準備・片付けなどがあります。役員会の会場は園舎を利用され、会報配布や保護者会決定事項の家庭への通知などは園との連携のもとで行なわれています。必要に応じて職員も参加され、後方支援に努められています。</p>		
	A - 3 - (1) - 虐待に対応できる保育所内の体制の下、不適切な養育や虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見及び虐待の予防に努めている。	①・b・c
<p><コメント> 虐待対応マニュアルが整備され、家庭の養育環境の把握や身体状況の観察により変化を早期に発見する取り組みが行われています。対応方法については、研修により知識を高め、全職員への周知にも取り組まれています。</p>		

(参考)

	第三者評価結果		
	a	b	c
共通評価基準 (評価対象 ~)	9	29	7
内容評価基準 (評価対象 A)	22	7	0
合 計	31	36	7